

「京都を学ぶセミナー丹波編」第5回（開催報告）

平成30年9月14日
京都学・歴彩館
075-723-4835

平成28年度から開始した「丹波の文化資源」研究プロジェクトの成果を、分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【丹波編】」の第5回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日 時 平成30年9月14日（火）13:30～15:00

■ 会 場 京都府立京都学・歴彩館大ホール

■ 参加者数 90名

■ 内 容
講 演

立命館大学 教授 河原 典史 氏

「保津川下りの歴史—船頭の生活となりわい」

江戸時代から行われていた保津川下りは、明治期になって観光資源となりました。知られざる3人1組からなる船頭技術、日々の生活の中にまで深く関わる遊船業などについてさまざまな資料を交えて紹介します。

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

夏目漱石が自らの乗船体験を『虞美人草』に描いた保津川下りは、日本の近代化以降、それまでの丹波から京都への物資運搬という水運から観光資源たる遊船事業へとその性格を大きく転換した。保津川を下る船の操船は3人の船頭によりなされるが、船頭の育成や操船技術の伝承のため、育成システムとでもいえる工夫が存在した。保津川下りの歴史を分かりやすく説明していただくとともに、川の流れに身をまかせる一方の乗船客には分からない船頭たちの日々の姿についてご講演いただいた。川の特性を熟知し、川の流れを巧みに操り、川と共に生きる船頭たちの生活を垣間見ることによって保津川下りの新しい楽しみ方を発見できる内容であった。また、この地域の人々の生活、生業によって形成された保津川下りの文化的重要性についても言及され、大変意義深いセミナーとなった。

参加者からは「次に乗ったときには船頭さんの権さばきに注目したいと思いました」「操船技術を次の世代に伝承するためのシステムがあるとは知らず面白かった。」「保津川下りの楽しみ方が増えました。」などの声があり、好評を博した。

